

2021 年度
部局 FD 活動報告

①人文社会学部／人文科学研究科

活動状況	学生による 授業アンケート等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、進路等についての学生・卒業生アンケートを行い、可能な範囲で結果をドイツ語圏文化論教室のHPで公開するとともに、授業設計に活用している。 ・日本語教育学教室の各ゼミの卒論、修論、博論情報や活動をHPに掲載し、進学などの参考情報を提供している。 ・教育学教室では、年に2～3回、「三者懇談会」という学生、院生、教員の三者が集まって話す場を設けており、そこで学生・院生の授業等に関する意見を聞いている。出された意見は教員の会議で検討し、授業等の運営改善へとつなげている。 ・心理学教室では、「授業アンケート」は19年度まではできていたが、コロナ禍の影響でほとんどがレポートになり、この2年間は十分行われていない。一方、教員の中には毎回アクションペーパーを提出させ、その回答を参考にFD活動を行っているものもいる。 ・歴史学・考古学教室の教員の中には、毎回の授業において必ず「ミニツッペーパー」の提出を義務づけて、そこに授業への意見・要望を書いてもらうことで、次回以降の授業改善に役立っている。 		
	研究会・講演会・ セミナー等	開催日時	参加者数	テーマ・実施内容等
		12月18日	80名	<ul style="list-style-type: none"> ○日本語・日本語教育研究会 第14回 研究大会 ・磯野 英治准教授（名古屋商科大学） 「言語景観を活用した日本語教育研究の今までとこれから」 ・王 瑩准教授（天津科技大学外国語学院） 「オノマトペを中心とした日中対照研究」・西郡 仁朗教授講演 「マルチメディア支援サイト‘TMU mic-J’の総括」
		2月21日	80名	○KADOKAWAの篠原賢太郎氏およびMICROSOFTの岡田兵吾氏をお招きして、『コロナ禍における人材育成とキャリア支援グローバルとローカルの視点から』と題して、オンラインにてFD講演会を開催した。
		3月予定	25名程度	○心理学教室では、外部講師を迎え、心理相談の具体例を挙げ、どのように改善したらよいか指導を受ける。
	委員会・会議等	開催日時	参加者数	テーマ・実施内容等
		計35回	3～4名	心理学教室では、臨床心理分野のスタッフで学生教育・臨床実習・相談室運営・カリキュラム構成や必要な資材などの検討を行った。
		1回	6名	年1回3月、翌年度の臨床実習やカリキュラムについて、臨床心理分野のスタッフと学生相談室の先生方も含めて検討を行う。
		1回	6名	年1回、臨床心理分野のスタッフと3名の心理相談室非常勤相談員でその年度の心理相談室の運営などについて検討を行う。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ○授業改善についての情報交換 ・授業のやり方、進め方について、今年度は特にコロナ禍におけるオンライン授業と対面授業の並走と、オンライン授業から対面授業への切り替えに関して教員間で頻繁にやりとりをした。 ・来年度の授業内容や授業計画について、教員間で随時話し合いをした。 ・全学の未修言語科目（ドイツ語・日本語・フランス語）でどのような問題が起きており、それにどのように対処したらよいかについて、教員間での情報共有を密に行った。 ・非常勤講師を交えての教員懇談会（ドイツ語教室・フランス語教室）を行い、教材情報や学生の学修状況、受講者数の変動や問題点などについて事細かに意見交換を行い、それを次年度以降のクラス編成や担当の組み替えにも活かしている。 		

<p>その他</p>	<p>○ハイブリッド形式の授業の提供 言語脳科学、精神神経科学、統語論基礎、生成言語理論<102>、日本語数特論演習、日本語習得論講義言語獲得論、など複数の授業をハイブリッド形式（ハイフレックス形式）で提供している。Zoomでリアルタイム配信しながら対面式の授業を実施し、録画をkibacoにて提供し、現時点で大学での受講をためらう学生への配慮として実施している。また、現時点で来日できていない留学生も、参加することができた。</p> <p>○Scrapboxの活用 「日本語習得論演習」「日本語習得論講義」「基礎ゼミ」などにおいて、オンライン、対面、ハイブリッドでの交流や、kibacoを使えない研究生（国費を含む）も使用できるScrapboxを使った授業を実施し、教育、研究上での成果をあげた。</p> <p>○助教主導のFD 日本語教育学教室内のゼミを越えた勉強会を行い、フランクな状況で活発な意見交換の機会を設けた。</p> <p>○出前講義の試み 社会福祉教育において、児童福祉施設や児童相談所の実情を知ってもらう出前講義の試み「児相のおしごと」を行った。</p> <p>○教員の研究・教育能力の開発 地域に開かれた心理相談室において、クライアントからの要望・評価及び学生からの要望をもとにした、研究や教育目標の模索を行った。</p> <p>○教育システムの開発 特に病院や社会福祉施設・学校など外部臨床実習において、学生からの要望や外部実習先からの評価をもとにし、最適な実習形態の模索を行った。</p> <p>○教育研究組織などの開発 臨床心理士・公認心理師のカリキュラム要請のもと、非常勤講師・相談員などを教育チームに迎え、実践で役立つ心理職養成のために、教育内容を教育チームで見直す。臨床心理士資格認定協会からの査察などを通じて、教育や組織見直しのアドバイスを受けている。</p>
<p>今後の予定・展望</p>	<p>上記のことを継続しながら、コロナ禍が収まり通常活動が再開可能になり次第、教員同士のFD活動や学生とのやりとりによる授業改善に取り組みたい。</p> <p>また、以下についても新たに検討、実施を開始している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人文でのFD講演会の開催 ・各教室において授業、進路等についての学生・卒業生アンケートを行い、人文全体でとりまとめを行い、状況を把握する。

②法学部／法学政治学研究科

活動状況	学生による 授業アンケート等	<p>【学部】 例年、専門教育科目を対象として、学生による授業評価アンケートを実施している。今年度は、対面授業を実施している（リモートとの併用を含む）科目に限り、対面授業の履修者に対して実施した。</p> <p>【研究科】 法学政治学専攻においては、少人数のため授業評価アンケートには馴染まず、実施していない。</p>		
	研究会・講演会・ セミナー等	開催日時	参加者数	テーマ・実施内容等
	委員会・会議等	開催日時	参加者数	テーマ・実施内容等
随時 メール開催		教員9名 で構成	自己点検・自己評価の一環として、学部長以下、部局の自己点検・自己評価作業部会に、FD委員を加えたワーキンググループで部局FDについて検討した。	
その他				
今後の予定・展望	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 法学部のFD活動をより活発化させるために、上記委員会・会議欄記載以外にも月1回以上開催している法律学・政治学各コースでのスタッフ・ミーティングをより充実させ、カリキュラムや講義のあり方について意見交換をし、法学部全体の教育効果の改善につなげていく。 リモート授業の状況を見て、対面授業を前提としている授業評価アンケートの実施のあり方を検討する。 <p>【研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2007年度から大学院FDの実施が求められていることを受け、法律学・政治学総合演習（全教員・全大学院生が参加する授業）等を中心とした自己点検・評価及びFD活動をさらに充実させていく。 上記と合わせて、定員充足率の向上や外国人留学生の受け入れを含めて、引き続き検討を行う。 			

③法学政治学研究科 法曹養成専攻

活動状況	学生による 授業アンケート等	<p>法学政治学研究科 法曹養成専攻では、教育および自習環境などの改善・充実のためのアンケート調査を、各期（前期・後期）に実施している。今年度も前期にオンライン方式により実施し、後期も同様の方式により実施する予定である。</p> <p>このアンケートは、すべての授業科目について学生による授業評価を行うとともに、オフィス・アワー等の学習支援体制、施設・設備等に関する意見や要望の聴取している。授業評価は、その科目の担当教員にフィードバックする。また、学習支援体制や施設等に関する要望については、毎月1回第1木曜日に開催されるFD会議のほか専攻会議において共有し、学習環境の改善にも役立てた。</p>		
	研究会・講演会・ セミナー等	開催日時	参加者数	テーマ・実施内容等
	委員会・会議等	開催日時	参加者数	テーマ・実施内容等
FD会議を毎月第1木曜日午後1時30分よりオンライン開催		毎回15名前後の教員（主に法科大学院専任教員）が参加	各回、異なるテーマを取り上げたが、今年度に扱ったテーマとしては、昨年度と同様オンライン形式でのオフィスアワー開設方法の検討、オンライン形式の授業に関する授業相互見学実施報告、オンライン形式での期末試験実施方法の検討等、新型コロナウイルス感染症対策に関連したテーマが多かった。	
その他	<p>法曹養成専攻では、専任教員は他の教員の授業を見学する義務を負い、その見学結果を所定の報告書にまとめてFD会議に提出・報告し、当該授業に関する見学者教員の評価や問題意識をFD会議構成員間で共有している（授業相互見学制度）。今年度は、授業がオンライン形式で行われることになった。オンライン形式であることから授業（ミーティング）への見学がしやすくなり、さらに対面授業とは異なるスキルが求められるオンライン形式での授業実施方法につき、他の教員の成功例を学ぶ好機となった。</p> <p>また法科大学院は、大学改革支援・学位授与機構に対し「年次報告書」を提出し、審査・評価を受けることになっている。2021年度も例年同様、年次報告書を提出する予定であり、取りまとめ作業が進められている。</p>			
今後の予定・展望	<p>来年度（2022年度）から、法曹コースからの進学者受け入れを開始する。その法曹コース進学者の中には、2019年度に明治学院大学法学部との間に締結された法曹養成連携協定に基づく入学者もいる。</p> <p>そのため、こうした法曹養成制度に関する諸変化に対応すべく、カリキュラム編成の見直しを始めとする教育体制・教育内容の改善・向上を図る必要がある。</p> <p>加えて、再来年度（2023年度）からは、司法試験の在学中受験が可能となる。それにとともに、司法修習開始時期の前倒しも予定されている。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の感染状況が予断を許さない状況にあるなか、オンライン授業による効果的な教育方法・体制を構築していく必要もある。</p>			

④経済経営学部／経営学研究科

活動状況	学生による 授業アンケート等	<p>下記の期間に、学部・専門教育科目および大学院・博士前期課程授業科目について授業改善アンケートを実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 前期I開講科目：2021年5月17日(月)～5月22日(土) 大学院：実施授業数 8 実施授業割合 87.50% 回答率 79.89% 前期・前期II開講科目：2021年7月5日(月)～7月17日(水) 学部：実施授業数 35 実施授業割合 94.12% 回答率 39.85% 大学院：実施授業数 25 実施授業割合 93.75% 回答率 70.58% 後期I開講科目：2021年11月13日(土)～11月30日(火) 大学院：実施授業数 3 実施授業割合 66.67% 38人 回答率 66.25% 後期・後期II開講科目：2021年12月18日(土)～2022年1月24日(月) 学部：実施授業数 46 実施授業割合 95.65% 回答率 19.3% 大学院：実施授業数 25 実施授業割合 92.00% 回答率 60.4% 		
	研究会・講演会・ セミナー等	開催日時	参加者数	テーマ・実施内容等
	委員会・会議等	開催日時	参加者数	テーマ・実施内容等
		5月10日	3名	業者を交えて部局内授業改善アンケートの質問項目見直しの検討などを行った(その他、学部、大学院のアンケート対象科目の確認を含む)。
10月4日		2名	後期の部局内授業改善アンケート実施に関して、業者と打ち合わせを行った。	
1月13日		13名	今年度、「授業改善アンケート実施要綱」を作成することになり、オンラインによる部局内ワーキングで原案を説明し、了承を得た。	
その他	<p>今年度は、これまで制定していなかった部局内の「東京都立大学経済経営学部及び経営学研究科に関する授業改善アンケート実施要綱」を作成した。全学共通科目の授業改善アンケート実施要綱等を参考に本年度後期から具体的に作成を始めたが、部局内ワーキングで原案を説明し、了承を得た。次に、1月の教授会で制定案を説明し正式に原案が承認された。</p> <p>また、部局内の第4回授業改善アンケートにおいて、特に、学部の回答率がかなり低下したので、その原因と今後の対応を考えたい。</p>			
今後の予定・展望	<p>部局FDセミナー等を開催し、部局固有の問題(大人数講義の方法・対処)やオンライン授業の活用などについて、教員間の情報共有や改善に取り組みたい。また、授業毎の授業改善アンケートの集計結果の時系列を提示することにより、教員の授業改善や学生の取組状況の推移を確認できるようにしたい。</p>			

⑤理学部／理学研究科				
活動状況	学生による 授業アンケート等	<p>「2021年度前期 理学部専門科目に関する授業アンケート調査」を実施した。調査講義数53、アンケート回答数1554。授業時間内のマークシートによるアンケートである。アンケートボックスの利用による授業時間外の実施も可としたが、利用者はいなかった。</p> <p>上の結果を踏まえて、専門教育科目アンケート（教員用）を実施した。</p> <p>「2021年度後期 理学部専門科目に関する授業アンケート調査」も前期と同様の形式で実施する。</p>		
	研究会・講演会・ セミナー等	開催日時	参加者数	テーマ・実施内容等
	委員会・会議等	開催日時	参加者数	テーマ・実施内容等
		4月28日 ～5月20日	4名	2021年度前期授業改善アンケート（全学共通科目、理系共通基礎科目、理学部・理工学系専門科目）
		6月9日	4名	2021年度前期授業改善アンケート（理学部・理工学系専門科目）
		7月22日 ～30日	6名	2020年度アンケートの報告、2021年度専門教育科目アンケート（教員用）の実施
10月14日		4名	2020年度後期で成績分布が基準外の科目に対する対応、TA等アンケート項目への意見、アンケート実施要綱の制定	
	12月17日 ～27日	4名	理学部授業アンケート（後期、来年度）の実施	
その他	<p>委員会は基本はメール開催、必要なときはウェブ会議開催とした。専門科目に対し学生の学習態度や授業に対する評価を問うアンケートを例年（昨年度を除く）実施しており、その結果の経年変化グラフを作成した。今年度は11問の回答項目すべてで評価は過去最高となり、過去14年（昨年度を除く）の経年変化においても着実に向上し続けていることが見て取れる。</p>			
今後の予定・展望	<p>来年度も理学部・理工学系専門科目の授業改善アンケートを実施する予定である。ウェブによるアンケートは回収率が低くなる現状を鑑み、来年度は従来通りの実施方法の予定であるが、将来的には回収率を上げる方策を取り入れながらウェブを利用した実施方法を模索している。</p>			

⑥都市環境学部／都市環境科学研究科

活動状況	学生による 授業アンケート等	<p>2021年度前期に Web で専門科目の授業アンケートを行なった。後期も Web でアンケートを行なう予定である。</p> <p>*授業科目数・回答率</p> <p>○学部 対象科目数・・・99（前期） 回答率・・・26.3%</p> <p>○大学院 対象科目数・・・32（前期） 回答率・・・24.6%</p> <p>*アンケートで工夫している点、昨年度からの変更点 昨年度はコロナ禍により実施しなかったが、今年度はMicrosoft Formsを利用した初のオンラインでの実施を試みた。</p> <p>*アンケート結果の学生及び教員へのフィードバックの状況 学生へのフィードバックは実施していないが、教員へは12/16の代議員会後に前期分をフィードバックした。</p> <p>*アンケート結果の活用方法 授業担当者へ結果を共有し、それぞれの授業運営に役立ててもらおう。</p>		
	研究会・講演会・ セミナー等	開催日時	参加者数	テーマ・実施内容等
		11月25日	54名	AIMS事業に伴う英語教育環境の整備（オンライン開催）
	委員会・会議等	開催日時	参加者数	テーマ・実施内容等
5月21日		6名	全学FD委員会審議事項の確認、部局授業アンケート（前期）および部局 FD セミナー実施について（オンライン開催）	
11月29日 ～1月5日		8名	全学FD委員会審議事項の確認・審議、部局授業アンケート（後期）実施について（メール開催）	
その他	<p>全学FD委員会の活動や資料、イベントの紹介については、部局FD委員会以外でも、メールや代議員会等で全教員向けに周知を行った。</p> <p>地理環境学科では、JABEE（日本技術者教育認定機構）のプログラムに認定されている関係で、教員相互の授業参観を行なっている。</p>			
今後の予定・展望	<p>専門教育科目の授業アンケートについて、来年度もWebで実施する予定である。部局のFDセミナーについても、各学科の輪番で実施する予定である。</p>			

⑦システムデザイン学部／システムデザイン研究科

活動状況	学生による 授業アンケート等	<p>システムデザイン学部における「専門教育科目」及びシステムデザイン研究科における「専門科目」に関する授業改善アンケート（学生用・教員用）を後期に実施する。 ○実施期間：2022年1月7日（金）～2022年2月3日（木） ○実施対象科目：180科目（同時開講科目含む）</p> <p>教員等の要望や昨今の社会情勢により、今年度は、例年のマークシート形式から、オンライン形式に変更した。前期は実施方法の検討や業者との調整等に時間を要した。アンケート結果については、例年とおり、学部・研究科の集計結果は、システムデザイン学部及び研究科のウェブサイトにて公開し、授業科目ごとの集計結果は各授業担当者にフィードバックする予定となっている。</p>		
	研究会・講演会・ セミナー等	開催日時	参加者数	テーマ・実施内容等
		9月16日	24名 (後日動画 配信希望 :7名)	日野C学生相談室専任カウンセラー駒屋雄高先生を講師としてお迎えし、「システムデザイン学部・研究科でみられる事例と対応『他大学からの編・入学者の相談特徴と配慮について』」と題したZoomによるオンライン講演会を、拡大学生委員会部会との共催で開催した。
	委員会・会議等	開催日時	参加者数	テーマ・実施内容等
		5月11日	11名	2021年度SD学部・研究科FD部会活動方針（授業改善アンケート、部局FDセミナー等）について（オンライン開催）
		7月26日 ～30日	12名	部局FDセミナー開催について（メール開催）
		9月7日	11名	後期オンラインによる授業改善アンケートの実施方法（運用タイプ）、質問項目等最終検討【各学科学域持ち帰り】（オンライン開催）
		12月7日 ～10日	12名	後期授業改善アンケートの周知依頼、授業改善アンケート実施要綱案について（メール開催）
		3月上旬メール 開催予定	12名予定	後期授業改善アンケート集計結果概要、次年度への申し送り事項等
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価委員長から部局長宛に、機関別認証評価に用いるアンケート等に関する実施要綱の制定依頼があった。授業評価(改善)アンケートも対象になっており、システムデザイン学部/研究科には該当の要綱等がなかったため、拡大FD部会にて要綱案を作成した。12月開催の教授会で承認された。 FD委員会主催の「TAスキルアップセッション」については、FD委員(拡大FD部会委員)からの案内を実施した。また、システムデザイン事務局・TA担当から、TA等に従事している各学生宛に案内メールを送り、参加を促した。 		
今後の予定・展望	<ul style="list-style-type: none"> 来年度以降は、前期後期ともに、授業改善アンケートを実施していきたい。 例年行っている部局FDセミナーについても、実施する方向で調整を行う。 			

⑧健康福祉学部／人間健康科学研究科

活動状況	学生による 授業アンケート等	<p>専門教育科目を対象に、学生による授業改善アンケートを実施している。前期末と学年末に集計結果をまとめ、各授業担当者にフィードバックし、次年度の講義内容の改善に役立っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施対象科目：前期131科目、後期136科目、通年4科目 ・回答科目（実施率）：前期60科目（45.8%）、後期・通年科目は集計中 <p>※前期は、対象科目131科目のうち、対面授業を一部再開した科目と期末試験のみ対面で実施した科目の計113科目について、アンケート用紙を授業担当教員に配布した。</p>		
	研究会・講演会・ セミナー等	開催日時	参加者数	テーマ・実施内容等
		9月30日 17：00～ 18：30	45名	<p>「実習及び演習におけるオンラインの活用事例」のテーマで行った。本学部の特徴である「臨床実習」や「学内実習」にオンラインを活用した授業事例について、荒川キャンパスの教員4名が講演した（Zoomによるオンライン開催）。</p> <p>アンケート結果や参加者の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講のきっかけ：演習・実習の改善に役立だつと思ったから（71%）、実践方法を知りたかったから（71%）であった。 ・セミナーの内容は授業改善に繋がるものでしたか：とてもそう思う（42%）、どちらかといえばそう思う（57%）であり、評価は良好であった。 ・4学科の特徴が活かされた発表だった。オンラインの工夫や方法を具体的に知るいい機会となった。Sharepointやslackの具体的な利用方法が知りたいと思った。学外実習の実現のために、多くの工夫と対応、実習施設への働きかけがなされていることがわかった等の感想や意見が多かった。
		3月3日	35名	学生のメンタルケアに関するテーマで、本学部の塩路理恵子教授の講演を予定している。
	委員会・会議等	開催日時	参加者数	テーマ・実施内容等
		8月4日	5名	部会長選出、全学FD委員会報告（オンライン開催）
		10月4日	5名	部局FD実施報告、前期授業改善アンケート集計報告、自由記述フィルタリングについて（メール開催）
		11月15日	5名	東京都立大学健康福祉学部 学生による授業改善アンケート実施要綱（案）について、卒業時の学修成果等アンケートの集計・分析結果の「部局独自質問データ」の分析依頼について（メール開催）
		1月11日	5名	授業改善アンケートのWeb実施への移行検討（メール開催）
		3月予定		後期授業改善アンケート集計結果、自由記述フィルタリングについて（メール開催）
その他				
今後の予定・展望	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、全教員にFD関連の知識を深めていただき、全体の教育力の底上げを図りたい。そのために、今後もオンラインセミナー等を開催し、FDについて学べる機会を提供していきたい。 ・2020-2021年度の卒業時の学修成果等アンケート（部局独自質問）の分析については、今後も継続して検討していく。 ・学生による授業改善アンケートのWeb実施について引き続き検討していく。 			